

2008年（平成20年）

# ハタハタ情報 No.2

平成20年11月10日発行

北海道立中央水産試験場 資源管理部 管理技術科 Tel : 0135-23-8707

インターネットからもご覧いただけます

Fax:0135-23-8709

: <http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/central/kanri/NEWS/HATAHATA/jyouhou2.pdf>

中央水試調査船おやしお丸によるハタハタトロール調査の結果を報告します。

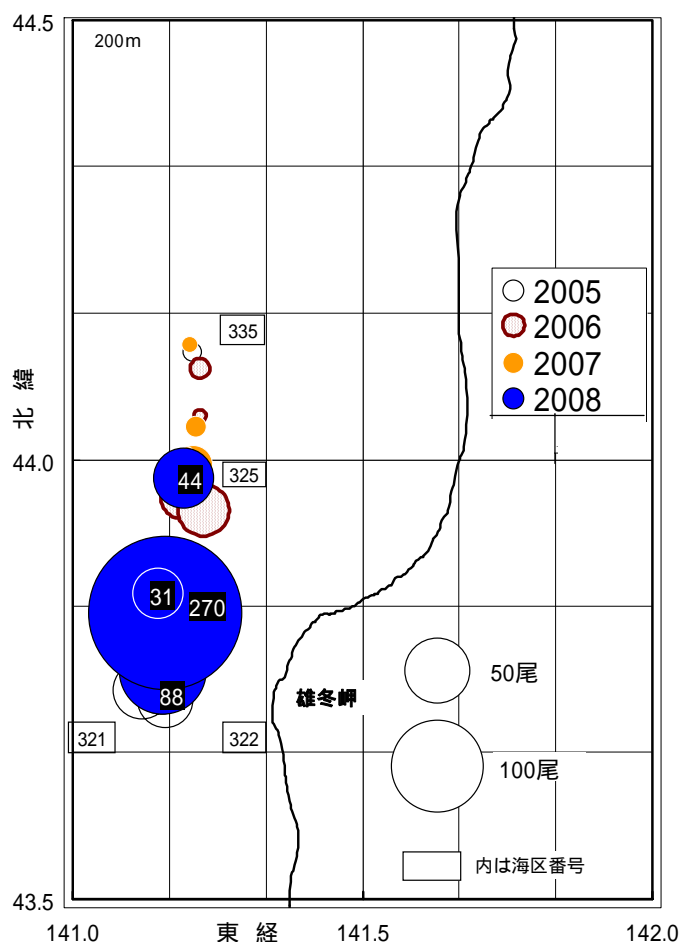
【調査期間】 2008年10月22日～10月30日

【調査海域】 雄冬岬沖から天売島沖（主な漁区は321,324,325）

水深211～254mの海域の4調査点

## < 調査結果の概要 >

1マイル曳網当たり67.8尾であり、分布密度は昨年よりも高い。  
魚体サイズは雌雄とも大きく、2歳魚が主体で1歳魚は2割程度。  
成熟状態から、沿岸への来遊時期は昨年並と考えられます。



## 1. ハタハタの分布状況（図1）

上記調査期間中に、留萌沖から雄冬岬沖にかけて4回のトロール調査を実施しました。

各地点での採取尾数は、31～270尾でした。

1マイル曳網当たりの平均採取尾数は108.3尾でした。1マイル曳網当たりの平均採集尾数（4調査地点分）は、67.8尾/1マイルでしたので、昨年の5.6尾/1マイル（7調査点分）比べ分布密度は高くなりました。

図1 おやしお丸で採取されたハタハタの尾数（2005年～2008年10月下旬～11月上旬の調査結果）

## 2. ハタハタの魚体サイズ (図2)

今年(2008年)採取されたハタハタの体長をみると、モード(最も多く漁獲された体長サイズ)は雄で160mm台(昨年は135mm台)、雌で180mm台(昨年は160mm台)にあり、雄雌とも昨年(2007年)より20~25mm大きい値でした。

年齢組成(%)でみると、今年は1歳魚が16%、2歳魚以上が84%でした。昨年は1歳魚が主体(73%)でしたが、今年は2歳以上の出現割合が増加し、1歳魚はわずかでした。今年9月の調査に比べ、2歳以上の割合はわずかに減少したものの、年齢組成に大きな変化はありませんでした(9月調査時1歳:10%、2歳以上90%)。

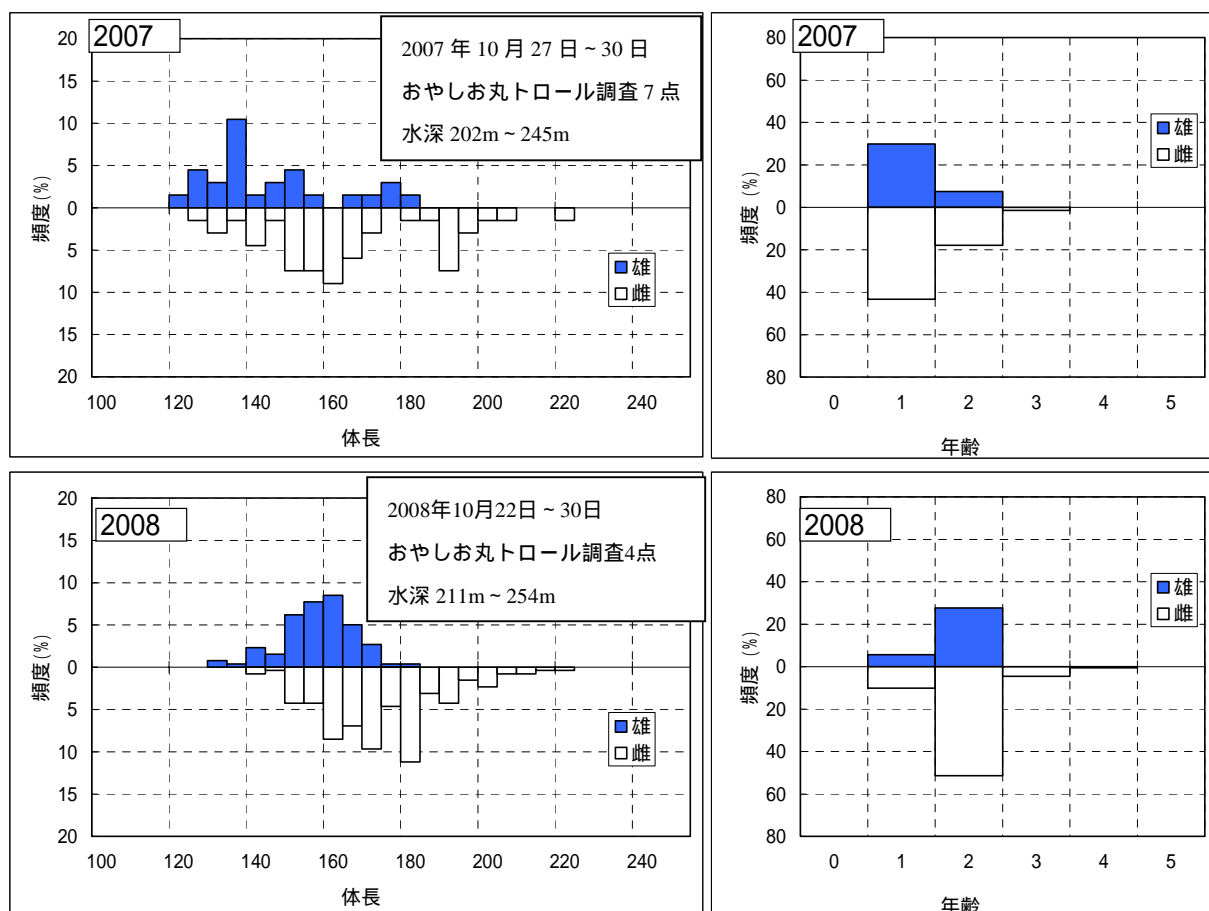


図2 おやしお丸の調査で採集されたハタハタの体長と年齢(上:2007年、下:2008年)

## 3. 成熟状態 (図3)

ハタハタは成熟状態(生殖巣の発達状態)が進むにつれ、南下し沿岸にて産卵することが知られています。成熟状態は生殖腺重量指数(GSI: 卵巣重量(g) ÷ 内臓除去重量(g) × 100)を観察することで判断します。これまでの調査結果から、およそGSIが40前後になると沿岸に産卵回遊します。

雌2歳のGSIの値(図中の )を10月下旬あたりで見ると、ほぼ2007年と同程度の低い値を示しています。よって、沿岸への来遊は昨年と同じ様な時期になると考えられます。

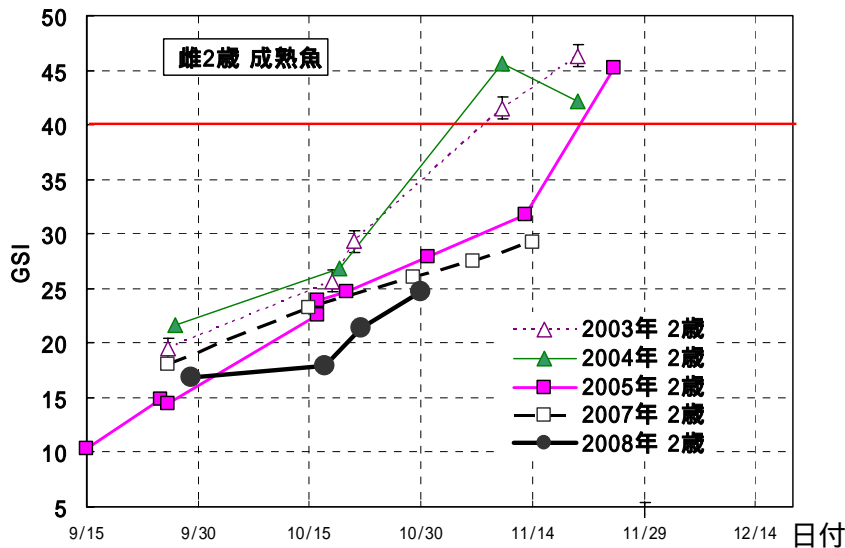


図3 雌2歳のGSIの推移（2003年～2008年）

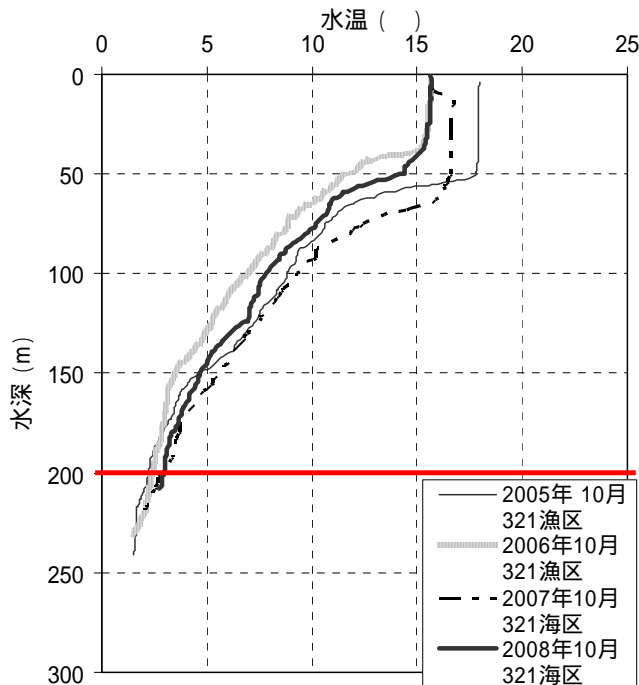


図4 321漁区10月の水深別水温の年別変化

#### 4. 水温（図4、表1）

321漁区の深度200mの水温は3.0であり、例年（2.5前後）よりも0.5高い値でした（図4）。今回調査を実施した海域別（漁区別）に、底層の水温を見ると、321海区で2.7と昨年より高く、その他の海区は昨年と同じくらいでした（表1）。

表1 底層水温

海区	321	324	325
測定水深(m)	208	227	224
水温( )	2.7	2.1	2.2

#### 5. まとめ

- ・曳網1マイル当たりの採取尾数は67.8尾で、昨年よりも分布密度は高い状態でした。
- ・魚体のサイズは、雌雄ともに昨年よりも大きく、昨年はほぼ1歳魚が主体でしたが、今年は2歳魚以上が8割（9月の調査では9割）となり、2歳魚が主体となりました。
- ・成熟状態から、沿岸への回遊は昨年並みと予想されます。
- ・水温は例年よりも高い傾向にありました。

（中央水産試験場資源管理部、Tel：0135-23-8707 直通、Fax：0135-23-8709）